

本書を手にとってすぐにわかることは、内容と構成が、今すぐ利用できるように工夫されていることである。そして、この本が威力を発揮するのは、病院幹部会議や経営陣とのミーティングのときであることは間違いない。しかしその前に、まず本書内(p.7)に示されている“経営マインドチェック”を受けて、自分の経営マインドを知るところから始めていただきたい。使うことを急ぐよりも、語彙や数値の意味を本書に沿って読み進めていくことで、自然と経営的な視点に立つことができている自分に気づくだろう。

実践的なレベルで展開する事例から学べること

本書のもう1つの魅力は、理論的な抽象レベルを論じる類のテキストブックではない点で、より実践的な具象のレベルへと落とし込んだ(レシピ的に具体化された)事例が紹介されている。同規模の病院が同じ形態で運営されているとは限らない。同設置主体の施設であっても、取り巻く人口構成や疾病構造などによりその組織の役割・特徴が表われてくる。それぞれが抱える諸問題や現状を、経営数値や運営方法が異なっていることを想定しながら共通の視点で照らし合わせることができるようになっていくことも魅力である。

副題には、「看護管理者のための」と題されているが、実は事務部長や会計課長職にある方にも十分に活用できるものである。何かの折に贈呈されてはいかがだろうか。看護管理者がどんな視点で物事を考えているかを伝えることができるし、

甘いチョコレートよりも効果があるかもしれない。また、看護管理者研修や院内の師長向け研修などにも役立ててもらえるだろう。

臨床現場の経験知から可視化されるもの

臨床の場面では、命を救う使命に迫られ、コスト的な発想は隠れてしまいがちで、経営・経済・財務などは縁のないものとのつい後回しにしてしまう。しかし、財政赤字を繰越金や交付金で補っている組織が生き残れる時代は消えつつある。一方、経営コンサルタントが臨床の現場を視察することなくアウトプットだけで管理される組織は、安全が保たれず、多忙さからくる疲弊感でいつかは崩壊する。著者の経歴をみると、臨床現場で得られた経験知をコンサルト業のなかで転化し、形式知として可視化されている点が興味深い。患者(顧客)満足や職務満足に関しても、割かれたページ数は少ないが参考にすべき内容が凝縮されている。

医療現場は、診療報酬点数の引き下げ、高度な医療処置に付随するリスク、患者さんからの苦情・クレームなどへの対応を迫られ、十数年前とは掛け離れた現状にある。適切な医療を提供するために「適切な収益」とは何かを考えるためにも、医療収益そのものの考え方などから改めて確認してもらいたい。

患者の安全と質の向上を目標に日々奮闘している看護管理者に、客観的な数値から運営戦略のヒントを与えてくれる一冊であろう。



看護管理者のための実践的マネジメント

経営参画へのABC

吉田二美子 著

定価 2310 円
(本体 2200 円 + 税 5 %)
日本看護協会出版会
TEL. 0436-23-3271

適切な医療を提供するための「適切な収益」とは何か

餅田敬司 滋賀医科大学医学部附属病院副看護部長, 医療安全管理部副部長

評
BOOK